

男女共同参画の推進について

【調査の目的】

経済のグローバル化や少子高齢化、人口減少など、私たちを取り巻く環境が急速に変化していく中、男女がお互いを尊重し、あらゆる分野でそれぞれの個性と能力を発揮することができる男女共同参画社会の実現は、大変重要です。

福岡県では、「女性がいきいきと働き活躍できること」を重要な施策のひとつに掲げ、計画期間を平成28年度から32年度とする「第4次福岡県男女共同参画計画」を策定し、様々な施策・事業を推進しているところです。

また、DV（ドメスティックバイオレンス）をはじめとする女性に対する暴力は依然として深刻であり、社会的・経済的に厳しい状況にある女性への支援も、男女共同参画社会を実現していく上で重視すべき課題です。

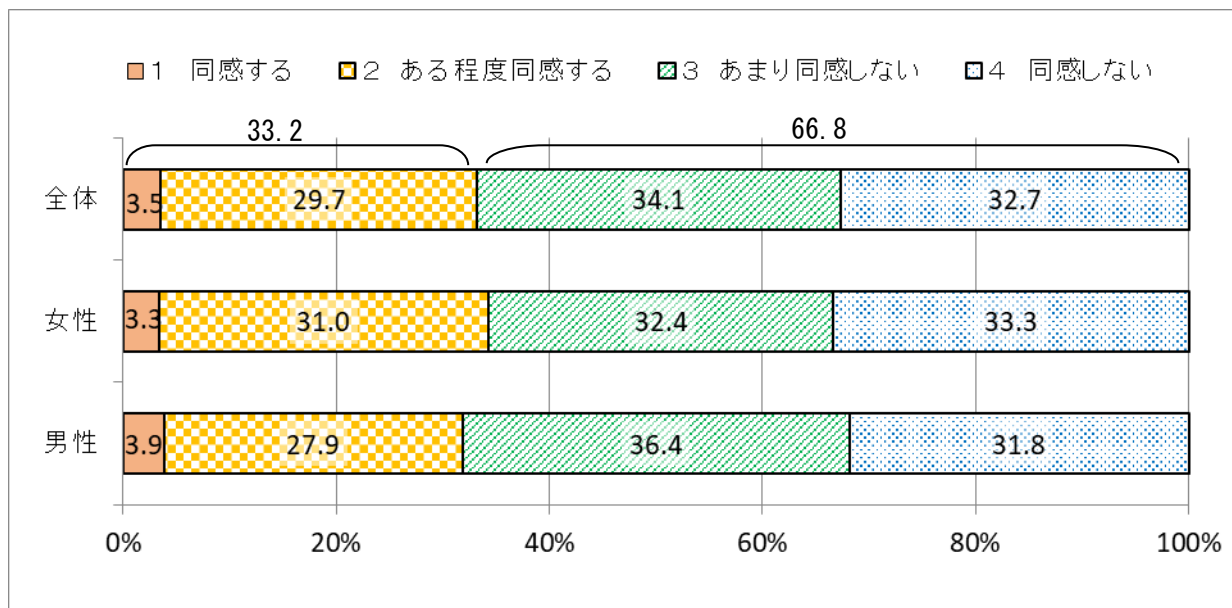
こうしたことから、今後の男女共同参画を推進する施策を検討企画する上での基礎資料とするため、皆さんの男女共同参画に関する意識や実態を把握させていただき、また、DVの被害者支援は、被害にあわれた方が早期に相談されることが肝要であることから、その相談窓口の周知度等を把握させていただきたいので、御協力をお願いいたします。

(人づくり・県民生活部男女共同参画推進課)

問1 あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。

【回答内容】

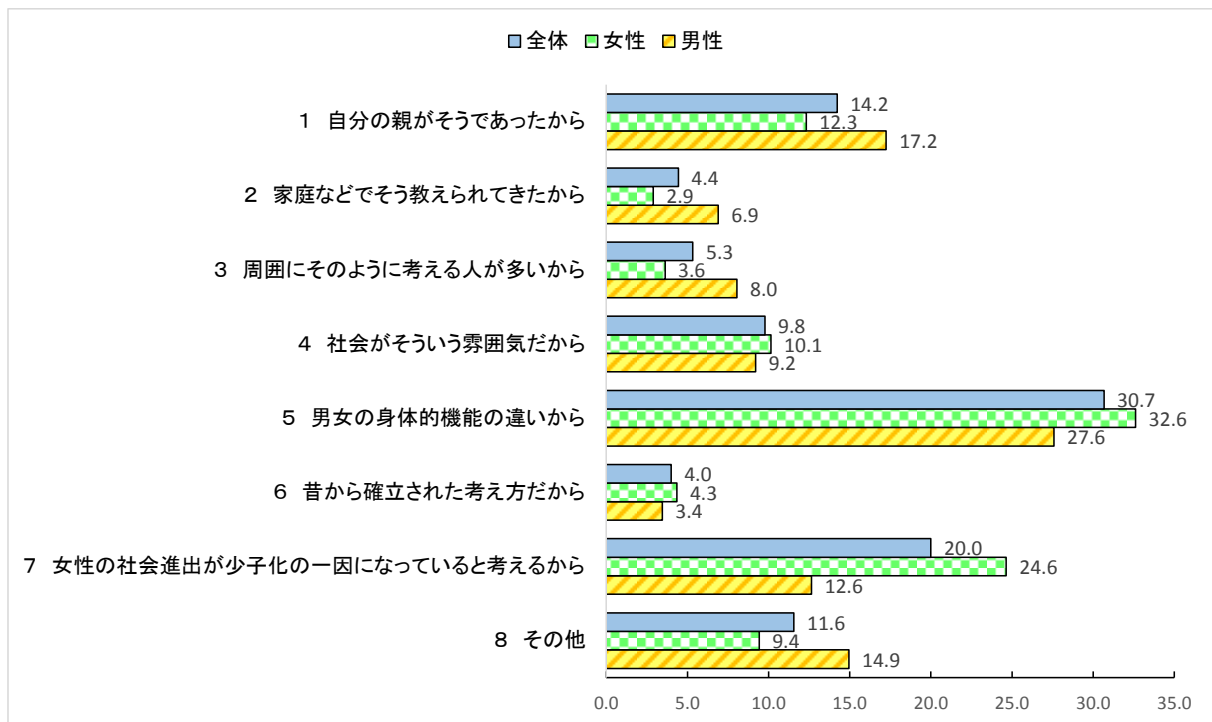
全体では、「同感する」「ある程度同感する」を合わせた「賛成派」が33.2%で、「同感しない」「あまり同感しない」を合わせた「反対派」が66.8%となっており、性別役割分担意識を容認しない人の割合が多くなっている。



問2 (問1で「1. 同感する」、「2. ある程度同感する」と答えた人にお尋ねします。) あなたが、「男は仕事、女は家庭」という考え方について、そのように考える理由は何ですか。(〇は2つまで)

【回答】

全体では、「男女の身体的機能の違い」を挙げる人(30.7%)の割合が最も多く、次いで、「女性の社会進出が少子化の一因になっていると考えるから」(20.0%)、「自分の親がそうであったから」(14.2%)の順となっている。



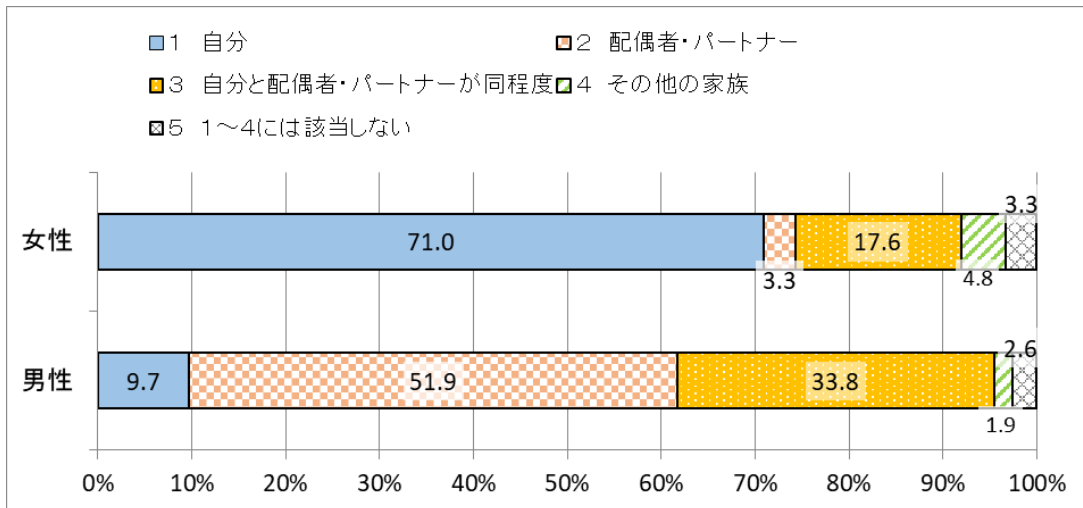
(その他) 抜粋

- ・ 幼児期の子どもの成長期にとっては、母親は身近にいて愛情をもって育てていくことが人間形成に大事だと考えるから。
- ・ 女性にはできることが限られていて、男性は家事等のできる範囲が狭いから。
- ・ 父子家庭より母子家庭が多いように、結局は子どもの面倒＝女性という風潮だから。
- ・ 子どもとの時間を無くしてまで働きたくないから。成長めまぐるしい今の時期を自分が楽しみたいから。
- ・ 男が働いて、女性が家庭を守って全体を支える方が家庭としてうまくいくのではないかと思う。でも今は男性の給料だけでは十分ではない場合も多いから、女性が全部家のことをするのはなく、家族として全員で家事を分担して協力することが大切だと思う。

問3 あなたの家庭では、炊事・洗濯・掃除などの家事について、あなたと配偶者・パートナーのどちらが主にされていますか（配偶者・パートナーや子どもがいない方は、いると想定してお答えください。）

【回答内容】

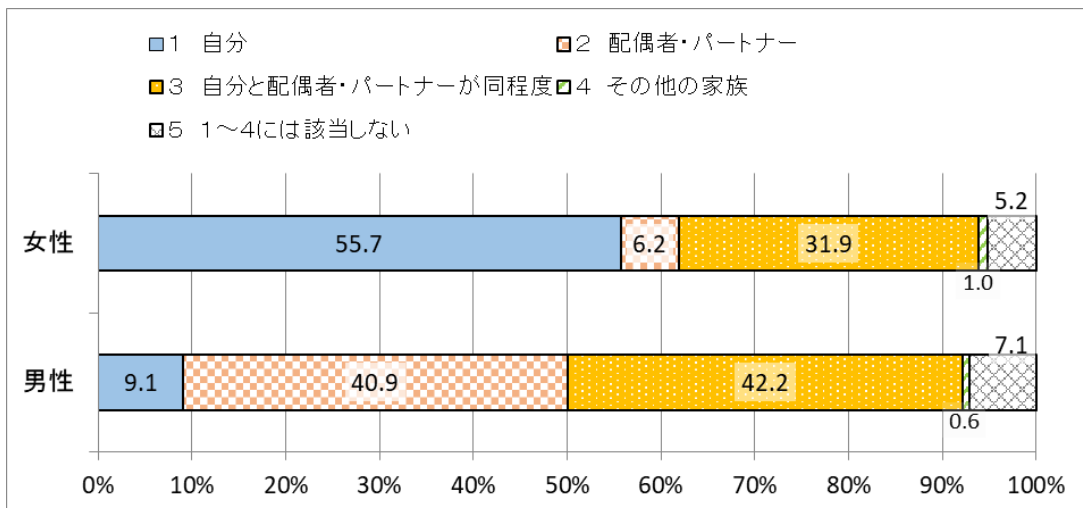
家事を行うのは、女性は「自分」（71.0%）、男性はパートナー（51.9%）で最も多い。「自分と配偶者・パートナーが同程度」は、女性が17.6%、男性が33.8%と男性の方が16.2ポイント多く、男女の違いがみられる。



問4 あなたの家庭では、育児・子どものしつけについて、あなたと配偶者・パートナーのどちらが主にされていますか（配偶者・パートナーや子どもがいない方は、いると想定してお答えください。）

【回答内容】

育児を行うのは、女性は「自分」（55.7%）が最も多く、次いで自分と配偶者・パートナーが同程度」（31.9%）となっている。男性は「自分と配偶者・パートナーが同程度」（42.2%）が最も多く、次いで「パートナー」（40.9%）となっている。



問5 あなたは、DV（ドメスティック・バイオレンス）について相談できる窓口があることを知っていますか。

※DV（ドメスティック・バイオレンス）とは
配偶者（事実婚を含む）や交際相手からの暴力をいいます。

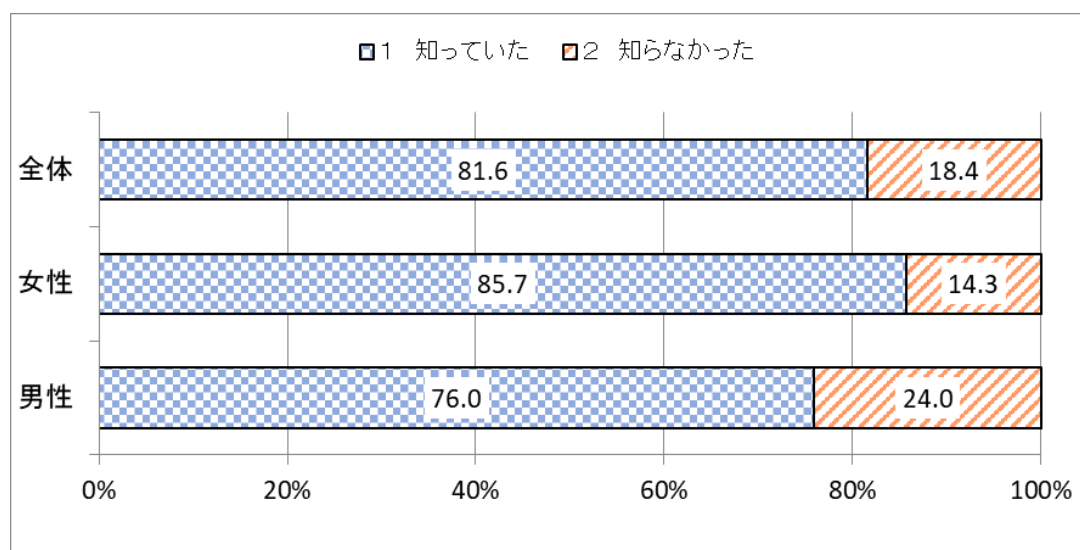
【DVの事例】

身体的暴力	殴る、蹴る、物を投げつける など
精神的暴力	大声でどなる、無視する、外出・電話を制限する など
性的暴力	性行為の強要、避妊に協力しない など
経済的暴力	借金をさせる、生活費を渡さない など
子どもを利用した暴力	子どもに悪口を吹き込む など

※県の福祉事務所（9ヶ所）、女性相談所などに相談窓口を設けています。

【回答内容】

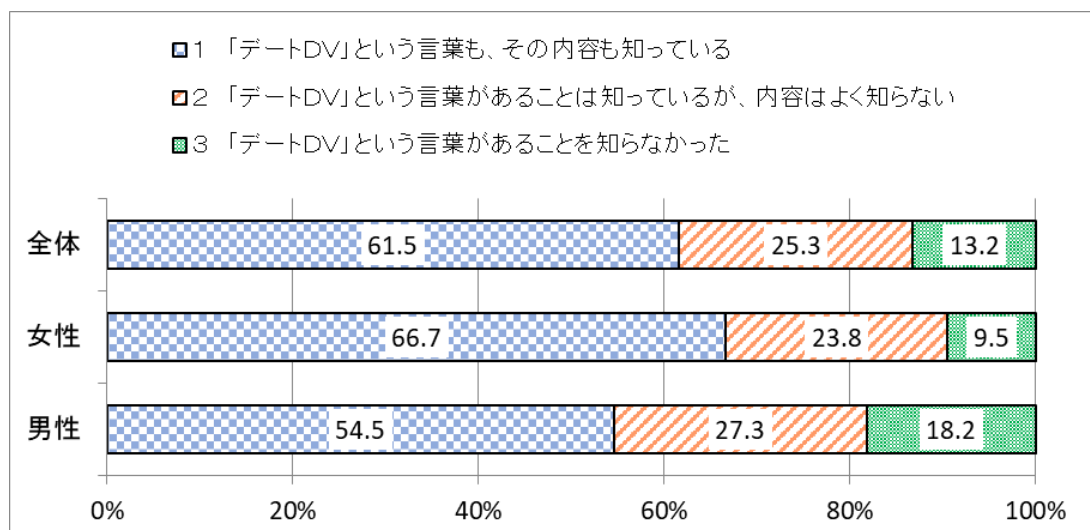
DVについて相談できる窓口があることを「知っていた」と回答した人は、女性は85.7%、男性は76.0%である。



問6 あなたは、「交際相手からの暴力」（いわゆる「デートDV」）について、知っていますか。

【回答内容】

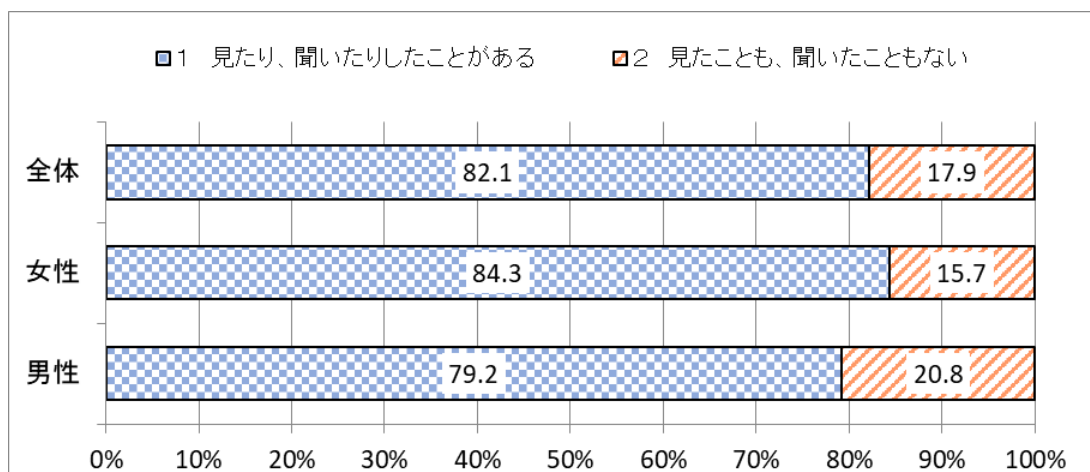
全体では、「言葉も、その内容も知っている」が61.5%、「言葉があることは知っているが、内容はよく知らない」が25.3%、「言葉があることを知らなかった」が13.2%となっている。また、「言葉も、その内容も知っている」と答えた人の割合は、女性で66.7%、男性で54.5%となっており、男女で12.2ポイントの差がみられる。



問7 あなたは、DV防止に関する広報を見たり、聞いたりしたことがありますか。

【回答内容】

全体では、「見たり、聞いたりしたことがある」は82.1%、「見たことも聞いたこともない」が17.9%となっている。

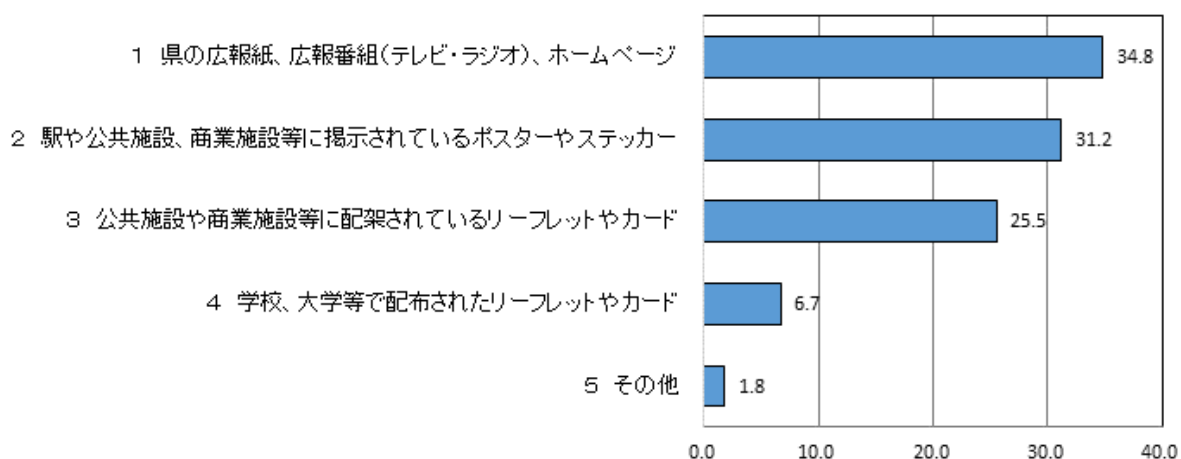


問7-2 (問7で「1」を選択された方にお尋ねします。)

あなたが見たり、聞いたりした広報の媒体はどのようなものでしたか。(〇は2つまで)

【回答内容】

「県の広報誌、広報番組(テレビ・ラジオ)、ホームページ」が最も多く(34.8%)、次いで、「駅や公共施設、商業施設等に掲示されているポスターやステッカー」(31.2%)、「公共施設や商業施設等に配架されているリーフレットやカード」(25.5%)の順になっている。



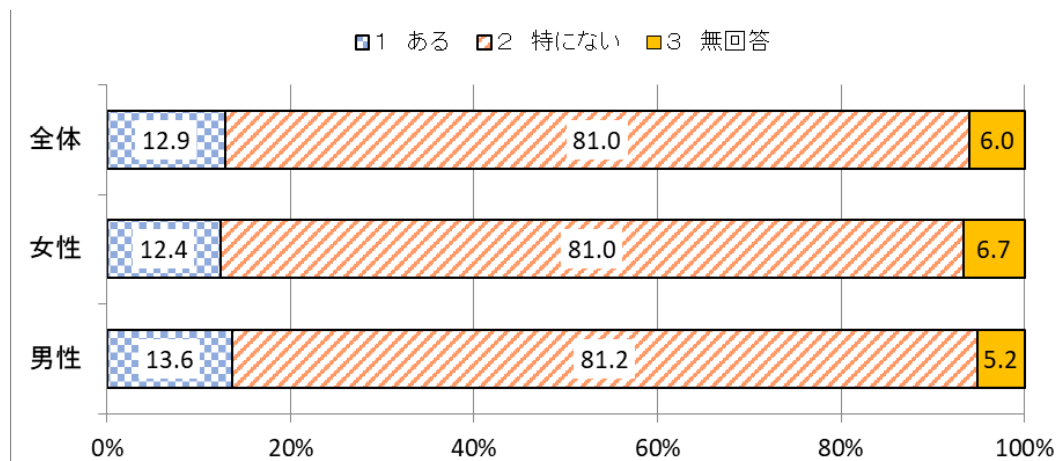
(その他) 抜粋

- ・市町村の広報誌や男女共同参画センター
- ・テレビコマーシャル
- ・商業施設やコンビニエンスストアのトイレ

問8 男女共同参画の推進について、これまでの設問意外に意見はありますか。

【回答内容】

「ある」と回答したのは12.9%となっている。



(意見) 抜粋

- 男女共同参画と敢えてうたわなくても、ごく自然にそれが実現できる社会環境を醸成できるような施策を行うべき。
- 男女平等、女性の社会進出と言われてはいるが、身体的機能等の違いから女性への負担は男性より確実に大きくなる。それに加え、結婚を機に仕事を辞めざるを得なかった女性の再就職の厳しさや待機児童の問題、働く環境面から、なかなか男女平等にはいかないと思う。
- 男性の意識改革は当然だが、女性の「責任ある立場に立ちたくない、責任を負いたくない」という意識を変えていくことも重要。
- 女性が女性の敵になることがある。育った環境によって、それを男女差別だと思っていない女性もいる。女性自身がより男女共同参画について高い意識を持つよう勉強する機会が必要。
- 「男女共同参画」など「男女」になると、「女性」に論点・焦点が偏りすぎ、相対的に男性が被る差別や人権問題が黙殺され軽視されている。
男性が被っている不利さ・差別・人権問題も軽視無視せず認識し取り組み解消させることを強く求める。例えば、「調査の目的」にもあった「女性に対する暴力」という概念は「異性に対する暴力」に変え、男性被害者もはっきりと認識し男性被害者救済に取り組むべき。
- 男女参画というととかく女のことばかりになりがちだが、そもそも男の低賃金長時間労働のせいで女が働きながらワンオペ育児にならざるを得ない状況に陥っているわけなので、女の働きやすい社会を作る前に男の長時間労働を是正することから始めるべき。
- 男女をあまりにも平等同質に扱う考え方には個人的には反対。それぞれの適材適所があると思う。しかし互いに対する尊敬心と大切にしている心は重要だと思う。